

「主体的な学習姿勢をはぐくむ取り組み」

～ペア学習やグループ学習の効果的な取り組みを通して～

沖縄県立知念高等学校教諭 神谷綾乃

I はじめに

本校は今年度で創立70周年を迎えた地域の伝統校である。「和衷協同」という校訓の下、勉学や学校行事、部活動に意欲的に取り組む生徒が多く、活気に満ちた学校である。また、「意欲に燃えた、節度のある、心身ともに健全で、創造性豊かな、逞しい人間の育成をめざす」ことを教育目標にしており、全職員の協力の下、心豊かな生徒の育成にも力を入れている。高校総体においては、なぎなた部を始めとしてヨット部や弓道部、陸上部やテニス部などが良い成績を修めて九州大会に出場するなど部活動にも懸命に取り組む生徒が多い学校である。

II 研究の概要

1 テーマ設定の理由

私は1学年の応用クラスと普通クラスの「国語総合」の授業を担当している。その中で、授業中の生徒の様子を観察していると、受け身な態度の生徒が多いことが気になった。黒板に書かれた板書事項を写すことは丁寧に行うが、読み取ったことを発表することや自分から進んで考えを深めようとするには消極的な姿勢の生徒が多いように感じる。

国語の授業を通して、学習内容を理解するだけではなく、自分の考えを深め広げることも重要なことである。学習指導要領に掲げられている「生きる力」の知的側面である「確かな学力」の要素には、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成をねらいとしている。

そこで、国語の授業の中で、ペア学習やグループ学習を効果的に取り入れ、課題である主体的な学習姿勢の育成を目指し、本研究のテーマとした。

2 研究仮説

- (1) ペア学習やグループ学習を取り入れることで、授業に主体的に取り組む状況を作る。グループ学習の際は、相手の意見を受け入れ、協力し合える環境作りを行う。自分の意見を述べやすくすることで、生徒が授業に主体的に取り組めるであろう。
- (2) 生徒同士が考えを交流することで、新たな視点を発見したり、自分の考えを深めたりすることにつながる。そのようにすることで、授業に主体的に取り組む姿勢をはぐくめるであろう。

III 研究方法

1 研究対象

沖縄県立知念高等学校 1学年

1年1組（男21名、女20名、計41名）、1年3組（男20名、女20名、計40名）

2 研究計画

4月	生徒の実態把握（国語についてのアンケート）
5月	研究テーマの設定・検討
6月～12月	授業実践、最終アンケート調査・分析
12月～1月	研究の考察及びまとめ

3 研究方法

- (1) グループ学習を行う際、グループの人数や編成の仕方、グループ学習の進め方の定着をはかる。
- (2) 自分の考えを整理したり、考えたりする時間を十分に取、グループ内で意見交換を行う。
- (3) 話し合いや全体での発表を通して、自分と他者の意見を共有する機会を設ける。

IV 実践報告

1 実態調査

4月に生徒の実態把握のため、ペア学習やグループ学習についてのアンケートを行った。その結果、ペア学習やグループ学習に取り組みたいと答えた生徒の割合は78%、取り組みたくないと答えた生徒の割合が22%であった。取り組みたい理由として、楽しく授業を受けることができることや協力して進めることができることなどが挙げられていた。

また、「人前で意見を述べることに對してどう思うか」という質問に対して、得意と答えた生徒の割合は7%、苦手と答えた生徒の割合が59%、どちらでもないと答えた生徒の割合は34%となった。実態調査から人前で意見を述べることを苦手と感じている生徒が多いので、ペア学習やグループ学習を取り入れることで、人前で意見を述べることへの抵抗感を減らしていきたいと思う。

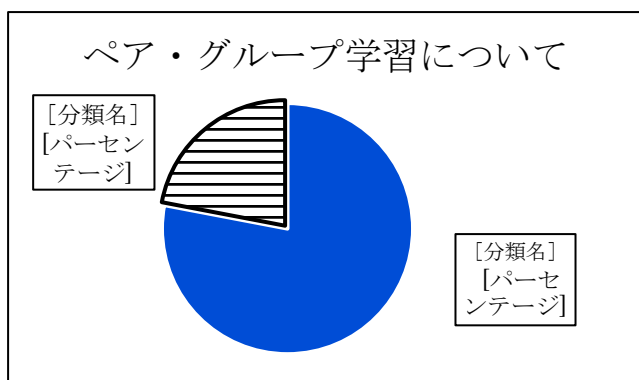


図1 ペア・グループ学習についてどう思うか

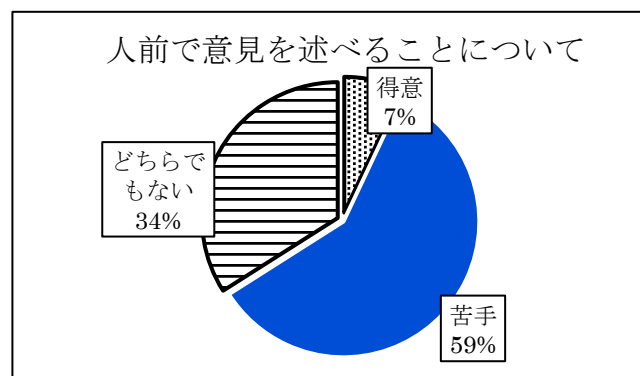


図2 人前で意見を述べることについて（4月）

2 授業実践

(1) 評論文「水の東西」

評論文の「水の東西」を学習した後、日本（東洋）と西洋の考え方や感じ方の違いについて例を挙げさせた。

まずは、学習プリントを用いて各自で例を考えることを行った。その後、グループ学習を取り入れた。各自で例を考えさせる際、なかなか例を挙げられない生徒もいた。そのような生

徒に対しては、例や考える際のヒントを出した。授業時に例を考えさせるのもよいが、課題として事前に考えさせても良かったのではないかと思った。その方が、グループ学習を行う際に考えをより深めることができたのではないかと考えた。

今回は初めてのグループ学習ということもあり、発表の仕方の定着を図った。1 グループ 5～6名でグループを作り、グループのリーダーを決めた。意見を発表する際は、リーダーから時計回りで発表を行った。新学期が始まり2か月経ってからの実践ではあったが、生徒同士が打ち解けていないグループもあり、意見を述べることにためらっている様子も見受けられた。意見交換がスムーズに進んでいないグループに対しては、助言したり、意見を促したりしながら机間指導を行った。今後はグループの編成の仕方やグループの人数を検討したいと思う。

(2) 漢文「虎の威を借る狐」

「虎の威を借る狐」の教材を用いて、話者（江乙）の主張したかったことを読みとることを行わせた。グループでの意見交換を行う前に、生徒同士で各グループのリーダーを決めさせた。リーダーを自主的に引き受けたグループはリーダーが率先して話し合いを行っていたが、そうではないグループは話し合いをスムーズに進められていない様子も見受けられた。そのため、今回はリーダーを指名して行わせたい。1学期にグループ学習を行ったときと比較すると、学級内の仲も深まったこともあり、発言しやすくなっているように感じた。学習後の感想には、「グループの人達が自分とは違う意見を持っていて、こんな考え方もあるのかと見方が広がった。」や「自分一人だと間違っていたらどうしようと思うことがあるけれど、グループだと間違っていてみんなの意見で出た答えだから大丈夫だと思える。」といった感想もあった。今回は、グループのメンバーの意見を学習プリントに記入させながら、グループ学習を指導したい。

(3) 小説「羅生門」

「羅生門」の学習後、「生きるために行う悪は許されるか」というテーマのもと、グループ学習を行った。前回の反省を踏まえて、グループのリーダーを指名した上で行わせた。また、グループ学習の進め方を再度確認して行わせたので、授業とは関係のない話をするグループは少なくなった。今回は、グループのメンバーの意見を学習プリントに書かせることを徹底させた。そのため、グループのメンバーの発言を意識して聞くことや自分の考えと異なる意見を興味を持って聞いている姿が見受けられた。今回のグループ学習を通して考えさせたことは、「普段考えることのないテーマであったため考えさせられた。」や「答えを出すことが難しいテーマだった。」という感想が挙がっていた。

(4) 古文「筒井筒」

平安時代の人々の恋愛をテーマとした「筒井筒」を教材としてグループ学習を行った。登場人物の男が別の女のもとへ行き通うようになったが、妻が男を快く送り出したのはなぜかを読みとらせた。その際、「筒井筒」の話の内容や登場人物の状況を全体で確認した上で取り組んだ。恋愛をテーマとしていたこともあり、グループ学習が終わった後も話し合いを続けているグループも見られた。また、平安時代の恋愛の仕方や結婚の形態を学んだこともあり、時代背景を踏まえながら発言しているグループもあった。各グループで話し合いを終えた後に、全体の場

で意見の共有を図った。今回の取り組みで良かったところは、時代背景を踏まえた上で発言しているグループが見られたところである。生徒の感想から、グループ学習を行ったことで、内容の読みとりに結びついていることが分かった。

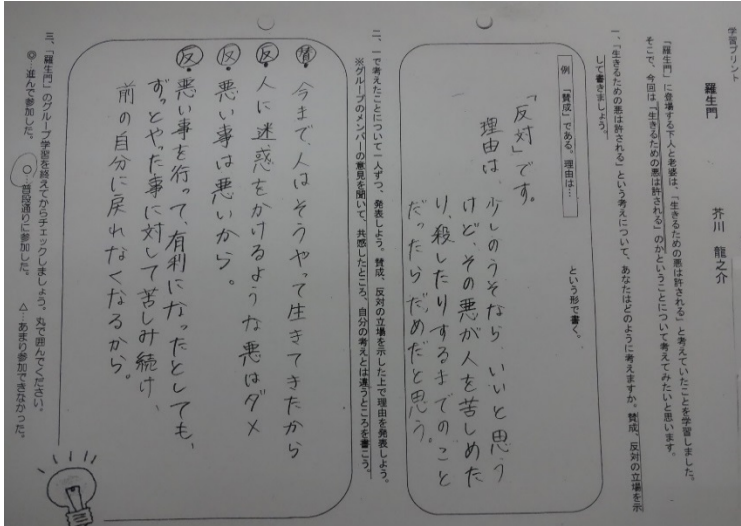


写真1 学習プリント（羅生門）

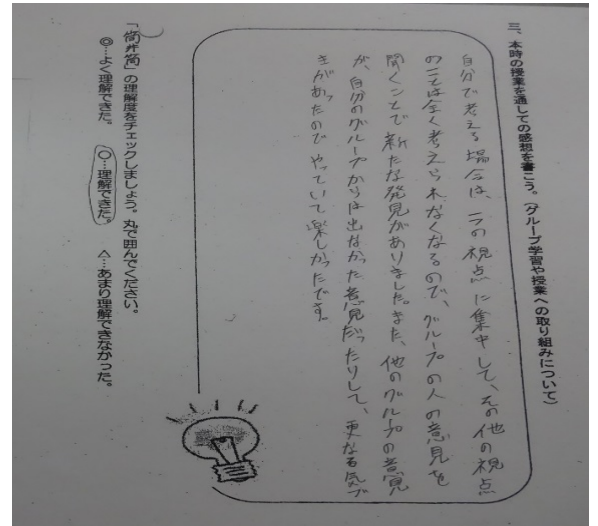


写真2 学習プリント（筒井簡）

V 考察と今後の課題

1 考察

12月に実施したアンケートの結果から次のことが分かった。「ペア学習やグループ学習を行ったことで授業への取り組み度はどうか」との質問に意欲的に取り組んだと答えたのは51%で、意欲的ではなかったと答えたのは3%であった。そして、どちらでもないと答えたのは46%であった。また、「人前で意見を述べることについてはどうか」との質問では、得意と答えたのが15%、苦手と答えたのが45%、どちらでもないと答えたのが40%であった。4月のアンケートでも意見を述べることについての質問は行ったが、4月と比較すると得意と答えた割合が12月には2倍以上の15%になっていた。そして、4月の段階では苦手な59%だったのに対して、12月のアンケートでは45%に下がっていた。このことから、グループ学習のやり方を定着させて、意見交換を行ったことの効果表れているのではないかと考えた。グループ学習を行うこと理由についても、グループ学習を取り入れる前に何度か伝えた。グループ学習を行うことで自分にはない発想に気づいたり、相手に自分の考えを伝えるための工夫を考えたりと生徒それぞれが何かしらの気づきにつながっていたのではないかと考えた。グループ学習の回数を増やすごとに、グループ内で発言できたことで自信につながっている生徒も見受けられた。12月のアンケートをとるときに、グループ学習を行って変化があったことを書かせた。その際、「視野を広げることができた」や「自分の意見と比べたり学べるが多かった」「自分の意見を言うことができた」という声が多数挙がっていた。グループ学習の回数を増やすごとに、分からない所は互いに質問しあって解決する姿も見られるようになってきた。生徒同士で学習内容を確認することができたことで、学びあいにより深まっているようにも感じた。

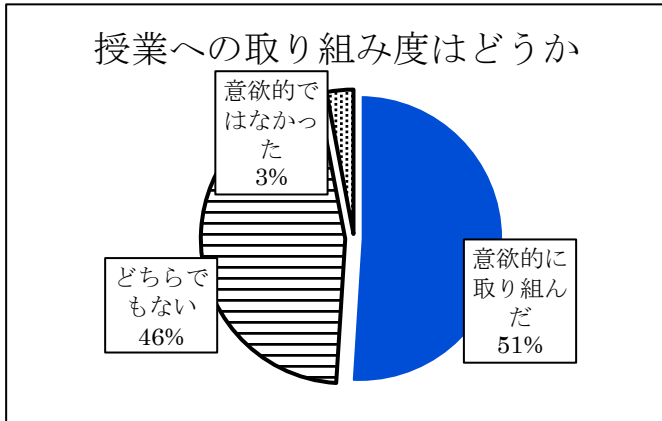


図3 授業への取り組み度はいかが

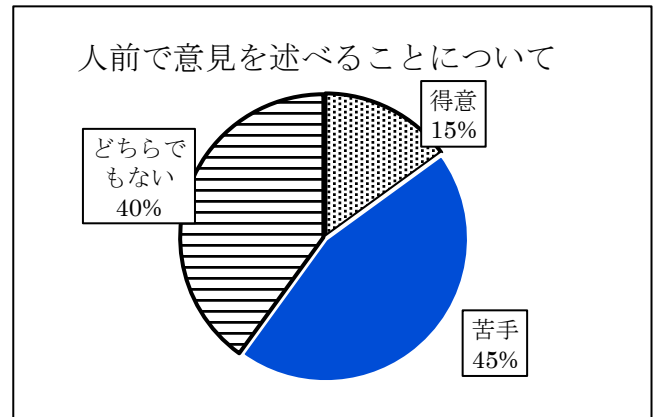


図4 人前で意見を述べることについて (12月)

2 今後の課題

12月のアンケートの結果からペア学習やグループ学習に対して、過半数の生徒が意欲的に参加できたということや意見を述べることへの苦手意識が少しだけ改善できたことが分かった。しかし、ペア学習やグループ学習よりも一人で学習する方が良いという声も数名から挙がっていた。そのことから、グループ学習で積極的に発言できなかった生徒や自分の考えを表現することを苦手としている生徒への対応の仕方が今後の課題である。グループ学習を苦手としている生徒には、学習プリントに書いてあることを発表させたり、発言を促す声かけを行ったりしたが、苦手意識を取り除くには実践回数が不足しているように感じる。今後は、ペア学習やグループ学習を行ったときに、他の職員にアドバイスを受けて改善策を探っていきたい。また、今回の研究では1年生を対象に行っていたが、他の学年でも取り入れて研究を続けていきたいと考える。

VI 終わりに

今回の研究を通して、ペア学習やグループ学習を取り入れることで、生徒の授業への参加意欲や授業内容の理解度が高まることを学んだ。生徒の中にはペア学習やグループ学習を苦手としている生徒もいるが、今後ともペア学習やグループ学習の取り組みを続けていきながら、国語の授業を通して「言語活動の充実」を図っていきたい。そして、私自身も教師としての資質の向上を図ることに努めていきたい。

〈主な参考文献〉

沖縄県立総合教育センター 2014 『平成25年度 沖縄県立学校初任者研修 課題研究報告書』
 大城貞俊・田名裕治編 2013 『教師が学び生徒が生きる国語科授業づくりの視点と実践(中学・高校版)』 でいご印刷